

## 第3学年 算数科学習指導案

令和元年\*月\*日（\*）第2校時3年\*組教室 指導者 \*\*\*\*\*

1 単元名 かけ算の筆算としかたを考えよう

2 単元の目標

2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
2～3位数×1位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算をもとにできることの良さに気づき、学習に生かそうとする。	2～3位数×1位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算をもとに考え、表現したりまとめたりすることができる。	2～3位数×1位数の乗法の筆算の手順を基にして計算が確実にできる。	2～3位数×1位数の乗法の筆算の仕方について理解する。  乗法の結合法則を理解する。

4 指導上の立場

○単元観：本単元では、何十、何百×1位数の計算や、2、3位数×1位数の筆算の仕方などについて学習する。既習内容をもとに児童が自ら計算の仕方を考え、筆算形式の指導に結び付けていくような指導の流れになっている。形式的な筆算の仕方の指導や計画練習に偏らず、計算方法を創り出していく過程を大切にしたい。

○児童観：本学級の子どもたちは、第二学年で乗法九九の学習をしており、乗法の意味や分配法則・交かん法則などの計算の決まりについて理解している。また、第三学年の第一単元で、0の乗法や10の段のかけ算などについて学習をして、分配法則を用いてかけ算の答えを求める学習も行っている。  
なお九九が苦手な児童は、100マス計算をするときも全体的に時間がかかってしまうこともあり、繰り返し練習することで苦手意識を克服するよう努めている。

○指導観：何十×1位数、何百×1位数では10や100を単位として考えると既習の九九に置き換えられることに気づくことが大切である。  
例えば、 $20 \times 3$ では、20を10が2ことみると $2 \times 3 = 6$ で10が6こになる。したがって、答えは60となるのである。この単位を決めてそのいくつ分とみることで既習の計算に帰着する考えは、今後の小数や分数の計算でも活用する考え方であり、丁寧に扱いたい。

5 本時案（第6時）

(1) 本時の目標

2位数×1位数（十の位の数と部分積が2桁、および部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>●導入 ・復習</p> $\begin{array}{r} 16 \\ \times 4 \\ \hline 64 \end{array}$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 2けた×1けたの筆算のしかたを考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 42×3</p> </div> <p>●見通しを立てる T これまでの筆算と違うところはどこですか。 C 十の位の数が2桁になる。 C 答えが3桁になる。</p> <p>●42×3の筆算の仕方を考える。 考えたことをノートに書く。</p> <p>T 42×3はどうやって筆算したらいいですか。 ・考えを発表する。</p> <p>●筆算の仕方をノートにまとめる。</p> $\begin{array}{r} 42 \\ \times 3 \\ \hline 126 \end{array}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習の復習をし、本時の学習の見通しを立てる。</li> <li>・めあてを板書し、全員で読ませる。</li> <li>・問題を板書し、問題把握をさせる。 ・問題を全員で読ませる。</li> <li>・十の位の数とのかけ算が2桁になることや、答えが3桁になりそうなことなどを確認させる。</li> <li>・1人1人考える時間をとりノートに書かせる。 ・机間指導をし、困っている児童に声をかける。</li> <li>・考えを発表させる。 (発表用ボード)</li> <li>・42×3の十の位の計算は40×3で120になり、百の位に1繰り上がることをおさえさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部分積に分けて考えることができる。</li> <li>・答えが百の位に繰り上がるのが理解できている。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 58×3</p> </div> <p>●見通しを立てる。 T これまでの筆算とちがうところはどこですか。 C 一の位が2けたになる。 C 答えが3けたになる。</p> <p>●58×3の筆算の仕方を考える。 考えをノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を板書し、問題を把握させる。 ・問題を全員で読ませる。</li> <li>・1人1人考える時間をとり、ノートに書かせる。</li> </ul>	

<p>T <math>58 \times 3</math>はどうやって筆算したらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを発表する。</li> </ul> <p>●筆算の仕方をノートにまとめる。</p> $\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline 174 \end{array}$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 百の位にくり上がる筆算も、一の位からじゅんばんに九九で計算するとよい。</p> </div> <p>●練習問題をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導をし、困っている児童に声をかける。</li> <li>考えを発表させる。(発表用ボード)</li> <li><math>58 \times 3</math>では、一の位の計算が<math>3 \times 8 = 24</math>となり、十の位に2繰り上がること、十の位の計算は<math>3 \times 5 = 15</math>となり、繰り上がった2と合わせて10が17こだから、百の位に1繰り上がることをおさえさせる。</li> </ul> <p>●解説しながら答え合わせをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分積に分けて考えることができる。</li> <li>一の位の計算で十の位に繰り上がり、十の位の計算の15を足し、15が百の位に繰り上がることを理解できている。</li> </ul>
---	--	--

<p>6 板書計画</p>		
<p>㊦ 2けた×1けたの筆算のしかたを考えよう。</p> <p>㊦ <math>42 \times 3</math></p> <p>㊦ 十の位の数が2けたになる。 ・答えが3けたになる。</p> <p>㊦</p> $\begin{array}{r} \square \\ \times 3 \\ \hline 42 \\ \times 3 \\ \hline 126 \end{array}$	<p>㊦ <math>58 \times 3</math></p> <p>㊦ 一の位が2けたになる。 ・答えが3けたになる。</p> <p>㊦</p> $\begin{array}{r} \square \\ 58 \\ \times 3 \\ \hline 174 \end{array}$ <p>㊦</p>	<p>㊦ 百の位にくり上がる筆算も、一の位から順番に九九で計算すればよい。</p> <p>㊦ p 101    △                   △                   △</p>